

口頭発表 | 口頭発表

2023年5月27日(土) 10:20 ~ 10:55 | 会場 J会場 (14号館144B)

児童

座長：田代 和美（和洋女子大学）

10:20 ~ 10:35

[2J-06] 学童期の子育て支援の課題；

放課後児童支援員と保護者の意識調査から

○吉川 はる奈¹、安東 英里佳¹、遊馬 沙織¹ (1. 埼玉大)

10:40 ~ 10:55

[2J-07] 児童館での遊び経験と遊び能力・自立性との関連 1

小学校高学年児童を対象とした質問紙調査から

○永峰 若菜¹、吉澤 千夏¹ (1. 上越教育大)

口頭発表 | 口頭発表

2023年5月27日(土) 10:20 ~ 10:55 | J会場 (14号館144B)

児童

座長：田代 和美 (和洋女子大学)

10:20 ~ 10:35

**[2J-06] 学童期の子育て支援の課題；
放課後児童支援員と保護者の意識調査から**○吉川 はる奈¹、安東 英里佳¹、遊馬 沙織¹ (1. 埼玉大)

キーワード：子育て支援、学童期、放課後

＜問題と目的＞厚生労働省によれば令和4年5月1日現在、放課後児童クラブの登録児童は1,392,158人、運営主体について公設が7,359か所、民営は19,324か所と増加の報告がある一方、入学時の「小1の壁」も指摘されている。放課後児童クラブとは児童福祉法に基づき名称を放課後児童健全育成事業といい、保護者が労働等で不在の家庭の小学生を、授業の終了後等に小学校の余裕教室や児童館などを利用し、生活の場や遊びの場を与え、健全育成をめざしている。小学生の放課後を支えるいわば学童期の子育て支援の場であり量的拡大とともに質的拡充が求められ、その充実には支援員と保護者との信頼関係構築は必要不可欠である。本報告では放課後児童支援員と保護者の信頼関係構築に対する双方の意識について明らかにする。＜対象と方法＞放課後児童支援員100名と登録児童の保護者250名を対象に質問紙による意識調査を行った。調査時期2021年11～12月 ＜結果＞放課後児童支援員と保護者ともに、信頼関係構築を大切と捉えていたが、相手に信頼を寄せるきっかけは異なっていた。保護者は信頼を寄せるきっかけとして、日々の連絡で直接密にやりとりすること、例えば迅速な電話対応、事実を直接話すなどは80%以上と高かった一方で、支援員は子どもの発達に関する専門知識を有していることが信頼関係構築のきっかけとなると考えていた。

口頭発表 | 口頭発表

2023年5月27日(土) 10:20 ~ 10:55 | J会場 (14号館144B)

児童

座長：田代 和美 (和洋女子大学)

10:40 ~ 10:55

[2J-07] 児童館での遊び経験と遊び能力・自立性との関連 1 小学校高学年児童を対象とした質問紙調査から

○永峰 若菜¹、吉澤 千夏¹ (1. 上越教育大)

キーワード：児童館、遊び、児童

【目的】本研究は子どもの遊び能力及び自立性と児童館利用の有無との関係を明らかにすることを目的とする。具体的には、小学校高学年児の児童館利用と日常の遊び状況、遊び能力、自立性との関連をアンケート調査により明らかにする。

【方法】調査対象はS県O市市内の小学校2校の4, 5, 6年生の児童634名であり、2022年6・7月にweb調査を実施する。調査内容は1. 対象児の属性, 2. 遊び能力及び自立性についての尺度(姜, 2007), 3. 放課後や休日の遊び, 4. 児童館の認知及び利用経験, 5. 相談相手に大別される。得られたデータを基に、児童館の認知と利用経験の関連、児童館の利用経験の有無と日常の遊び状況、子どもの遊び能力・自立性の関連の視点から分析を行う。

【結果】児童館の認知及び遊び経験は、児童の在籍する小学校と児童館との距離が関連しており、遠方よりも近距離にある小学校の方が児童館の認知、児童館での遊び経験を有する児童が有意に多い。次に、遊び能力・自立性について、児童館利用の有無による比較を行った結果、遊び能力尺度において有意差または有意傾向が認められる一方で、自立性尺度では有意差は認められない。このことから、児童館を利用する子どもは利用しない子どもに比して、遊び能力が高いことが示唆される。さらに、児童館利用の有無と日常の遊びとの関連では、児童館を利用する子どもは多様な子どもたちと日常的によく遊ぶことが明らかとなった。